鳥取大学

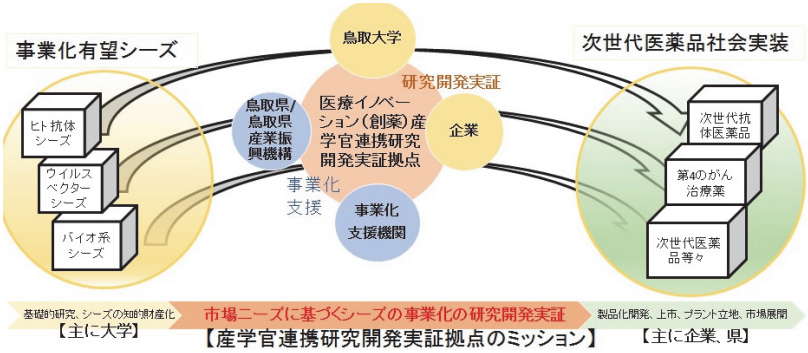
産学・地域連携推進たより

- 研究推進に関する事業報告
- 地域貢献・生涯学習に関する事業報告
- 知的財産管理運用に関する事業報告

2017
春号

研究推進に関する事業報告

1. 地域科学技術実証拠点整備事業に採択



平成 28 年度第二次補正予算事業として文部科学省から公募されていた「地域科学技術実証拠点整備事業」に、鳥取大学と鳥取県が共同提案していた「とっとり発医療イノベーション（創薬）産学官連携研究開発実証拠点」が採択されました。なお、提案件数 63 件のうち 22 件が採択され、鳥取大学は中国・四国地方では唯一の採択となります。「とっとり発医療イノベーション（創薬）産学官連携研究開発実証拠点」事業は、医療イノベーション、地方創生に資するため、事業化展開の実現性を高める事業コンサルティング機能を新規に導入する研究開発実証拠点を整備し、大学発の有望なシーズである完全ヒト抗体産生動物、がん治療用ウイルス等の医薬品開発ツールを活用する実証的な創薬研究開発を産学官共同で事業化プロセス加速化を図り、とっとり発次世代医薬イノベーションを創出することを目指すもので、今後、同拠点の整備（米子キャンパスを予定）を進め、事業化の加速等を図っていくこととしています。

2. メディカルジャパン大阪 2017　【2 月 15 日（水）～17 日（金）　開催：インテック大阪】

メディカルジャパンは、リードエグジビションジャパン株式会社を主催、関西広域連合を特別協力として開催される国内最大級の医療総合展示会です。2017 年度では、出展者数 1,105 社にのぼり、3 日間の来場者数は 2 万 9 千人、セミナー参加者数は 1 万 2 千人となりました。鳥取大学からは『きのこ抽出物ライブラリーからの生理活性物質の探索』と題して農学部の石原亨教授、『分子シャペロンを応用した細胞内可視化・蛋白質アミロイド抑制技術の開発』として大学院工学研究科の溝端知宏准教授、その他医学部附属病院から 3 名の計 5 件の口頭発表を行いました。

地域貢献・生涯学習に関する事業報告

1. とっとりめいじさんかくカレッジ女と男の生き方講座 第 3 回「とっとりのはたらきかた」開講

【1 月 28 日（土）：鳥取大学広報センター】

幅広い視点・切り口から男女共同参画について考え、新たな気づきや知識を提供する場として、明治大学・鳥取大学・鳥取県が連携し、「男女がともにになう社会づくり」をテーマに公開講座を開催しています。平成 28 年度第 3 回は、鳥取大学で「とっとりのはたらきかた」をテーマにワークショップを開催しました。

鳥取労働局雇用環境・均等室室長の廣瀬真理氏が、鳥取県の働き方の実情について労働時間の推移や育児休業取得状況などのデータを交えて講義され、鳥取県商工労働部就業支援課参事の井上孝夫氏は県の取り組んでいる「鳥取県正規雇用 1 万人チャレンジ」について講義されました。続いて、工学研究科の長曽我部まどか助教をコーディネーターとし、介護や育児と仕事との両立など「これまでの働き方」で困っていることなどを共有し、今後求められる「これからの働き方」について、4 つのグループに分かれた参加者による意見交換が行われました。

2. 平成 28 年度鳥取大学振興協力会西部地区会員懇談会・交流会

【1 月 27 日（金）：国際ファミリープラザ】

鳥取大学振興協力会では産官学交流事業の一環として各地区会員との懇談会を行っており、このたび

西部地区の会員 35 人に参加いただき、平成 28 年度事業の活動状況報告、平成 29 年度事業の企画・要望及び西部地区における振興協力会の活性化について意見交換を行いました。

また、講演会では、株式会社日本ケアサプライ代表取締役の金子博臣氏子氏が「介護ロボット普及における課題について」、医学部附属病院リハビリテーション部の松本浩実理学療法士が「ICT を活用した介護予防事業ーロコモ検診事業からみる今後の介護予防についてー」と題して、介護福祉分野における業界・研究の動きについて講義を行い、参加した 65 人は興味深く聞き入っていました。

3. サイエンス・アカデミー「数理科学とデータサイエンス」

【3 月 11 日（土）、3 月 25 日（土）：鳥取県立図書館大研修室】

本学では、教員が行っている研究や地域住民の方々が疑問に思っていることなどを紹介する公開講座「サイエンス・アカデミー」を毎月第 2・第 4 土曜日に鳥取県立図書館にて開催しています。

3 月からは最近の情報通信技術（ICT）の発展を背景に、「数理科学とデータサイエンス」をテーマとする全 4 回のシリーズを開催しています。

3 月 11 日の第 1 回目は工学研究科の井上真二助教が「身近な生活での意思決定に役立つ確率・統計の基本」と題して、確率・統計の基本である平均や分散の考え方やその活用手法について、3 月 25 日の第 2 回目では工学研究科の福山敬教授が「数学の力で地域社会を考える ～地理情報システムやゲーム理論を使って～」と題して、数学を用いた地方生活圏が抱える課題解決に向けたアプローチの手法を解説しました。ライブ中継先を含め計 173 名にご参加いただき、盛況でした。

4. 大山町企業連絡会議研修会　【2 月 15 日（水）：大山町大山公民館大集会室】

平成 24 年度から鳥取大学も大山町企業連絡会議に参加しています。

毎年この時期には研修会が実施されており、今回は大山町内企業から 20 名の参加がありました。研修会では、鳥取大学から産学・地域連携推進機構米子地区地域連携部門の坂下誠司産官学連携コーディネーターと COC+推進室の山本一志西部地区コーディネーターが「鳥取大学の産官学・地域連携および地方創生活動」と題し講演を行いました。参加者からは、「鳥取大学に限らず県内高等教育機関卒業生の県内就職について産官学で協力していきたい」、「まだまだ敷居が高いイメージがあるので、相談しづらい」などの意見がでました。今後も大山町企業連絡会議に参加し、地域企業との連携を図ります。

5. 琴浦町連携協議会　【2 月 15 日（水）：琴浦町役場本庁舎 2 階防災会議室】

地域貢献分野における一層の連携強化を図ることを目的として、琴浦町と鳥取大学の連携事業に係る意見交換会をはじめて実施しました。

当日は、琴浦町職員、大学職員あわせて 20 名が参加し、これまでの連携事業についての報告や 28 年度に新たに取り組んだ「芝収穫機の開発・製作」や「生薬・薬草研究」等についての成果説明を行うとともに、今後の連携事業を進めていく上での課題などについて意見交換を行いました。

6. 持続的過疎社会形成研究プロジェクト研究報告会「人口減少に適応した新たな地域社会づくり」

【2 月 17 日（金）：鳥取大学広報センター】

人口減少下での新たな地域社会づくりへの活用も大いに期待されている、モノのインターネット（Internet of things）やビッグデータ解析などの技術について、その具体的な活用方法例等を紹介する研究報告会を開催しました。当日は鳥取県、学生、県内外の企業、本学の学生等 40 名が参加する中、

工学研究科の菅原孔一教授に「ICT を活用した人物見守りシステムの構築」、桑野准教授に「ビッグデータを活用した公共交通の移動特性の分析」、長曽我部まどか助教に「テキストデータを活用した地域の運営支援手法」について報告をいただきました。

7. 日野川源流を守る会総会　【2月17日（金）：米子市文化ホールイベントホール】

本会は、豊島良太学長を会長として、日野川流域の自然・環境を守り、次世代へ引き継ぐため、流域に暮らす住民が交流・連携しさまざまな活動を行っています。

総会は約 120 名の参加があり、平成 28 年度事業報告及び収支決算と平成 29 年度事業計画及び収支予算（案）について議事が行われました。29 年度は森や川、海を守る活動として「日野川一斉清掃＆海岸植物学習会」「日吉津海岸クリーン作戦」など、歴史や文化、自然を学ぶ活動として「日野川ラフティング＆自然体験」「奥大山古道ウォーク」など、その他上下流域の交流推進活動、日野川フォトコンテスト作品展、森と水に親しむ活動支援事業など様々な事業を予定しています。

総会後は、高知県のたかはし河川生物調査事務所代表の高橋勇夫氏に「アユたちが見た日野川 2017～人と、川・アユの関係を考える～」と題してご講演いただきました。

8. 平成 28 年度鳥取大学振興協力会県外先進地視察　【2 月 21 日（火）～22 日（水）：兵庫県】

鳥取大学振興協力会では産官学交流事業の一環として毎年県外先進地視察を行っており、今年は兵庫県への視察を実施しました。

羽馬好幸会長（気高電機（株）代表取締役）をはじめ県内の産学金官関係者 36 人にご参加いただき、シスメックス（株）、コベルコ建機（株）、（株）トプコン、三菱電機（株）、協和（株）、日本電気（株）において、ビッグデータを活用したサービス展開等について視察しました。

9. 日南町連携事業報告会　【3 月 5 日（日）：日南町総合文化センター多目的ホール】

3 月 5 日（日）午前 10 時から正午まで、日南町総合文化センターを会場に「平成 28 年度鳥取大学・日南町連携事業報告会」を開催し、一般町民をはじめ、行政関係者や大学関係者など 70 名の参加がありました。

報告会では、平成 28 年度の連携事業のうち、「田園回帰の現状と課題：日南町大宮地区を事例として（地域学部 4 回生 長住雅之さん）」、「町内外から得られる支援は町民生活にどのような影響を与えているのか（農学部助教 片野洋平氏）」、「連携事業のこれまでとこれから（農学部教授 日置佳之氏）」の報告が行われました。

町民生活に関わりの深い内容であったこともあり、厳しい意見もありましたが、その分町民の方の関心の高さも伺えました。また、報告会後に大学教員や日南町、鳥取県の職員 30 人で構成される「連携事業ワーキンググループ会議（平成 28 年度第 3 回）」を開催し、平成 28 年度の連携事業についての実績報告と平成 29 年度に取り組む予定の新規事業などについて協議しました。

10. 平成 28 年度鳥取県大学振興協力会中部地区懇談会・交流会

【3 月 6 日（月）：北栄ドリーム農場、ホテルセントパレス倉吉】

中部地区の会員 17 人に参加いただき、平成 28 年度事業の活動状況報告、平成 29 年度事業の企画・要望及び中部地区における振興協力会の活性化について意見交換を行いました。

また、講演会では、農学部の野波和好准教授が「農業機械の開発動向と農作業の機械化について」、工学研究科の野口竜也助教が「鳥取県中部地震の発生メカニズムと鳥取大学における調査研究」について講義を行い、参加した 41 人は熱心に聞き入っていました。

11. 平成 28 年度鳥取大学振興協力会第 2 回運営企画会議

【3 月 10 日（金）：ホテルセントパレス倉吉】

鳥取大学振興協力会では、会員企業のニーズに応えるための活動を活性化させることを目的とした「運営企画会議」を設置しており、このたび第 2 回会議を開催しました。会員企業の実務担当者 6 人に来学いただき、平成 29 年度の事業企画や企業向け人材育成講座の検討など、具体的なテーマについて意見交換を行いました。本会議は今後も定期的に開催し、会員企業にとって必要とされる会となるための検討を重ねていくこととしています。

12. 平成 28 年度明治大学・鳥取大学・鳥取県連携推進協議会

【3 月 13 日（月）：鳥取大学広報センター】

本協議会は、平成 19 年度に締結された「明治大学・鳥取大学・鳥取県との連携協力に関する協定書」に基づき毎年度実施しているものです。

今年度も鳥取大学、明治大学間を TV 会議で繋いで開催し、27 人が出席しました。

会議では、主に平成 28 年度の事業実績及び平成 29 年度の事業計画について意見交換を行い、COC+事業における連携など、来年度も引き続き相互の連携を深め、各種事業を展開していくことについて申し合わせました。

13.　TORIDAI EDGE Extra

【3 月 29 日（水）：鳥取大学広報センター】

本学産学・地域連携推進機構と地（知）の拠点整備業の一環として、ワークショップ型の公開講座 TORIDAI EDGE を不定期で開催しています。

今回は「大学の上手な使い方？」を題して開催し、住民、行政などが地域の課題を一緒に考え解決する取組を支援する「地域課題研究 B（地域貢献支援事業）」の概要や応募の仕方などを説明した後、参加者 15 人と大学の研究者、大学の研究者と一緒に解決したいテーマを考え、さらにテーマに適した研究者を探してプロジェクトを企画するワークショップを行いました。

14. 鳥取大学・鳥取銀行調印式

【3 月 29 日（水）：鳥取大学広報センター】

本学広報センターにおいて株式会社鳥取銀行からの「鳥取大学みらい基金」への寄附金受け入れに係る調印式を行いました。本寄附金は鳥取大学が行う地域連携事業への支援を目的とするもので、株式会社鳥取銀行からは平成 19 年 4 月からの 10 年間に渡って寄附金をいただいており、このたび、引き続き年間 100 万円、5 年間 500 万円の奨学寄附金に係る覚書に調印しました。

大学として教育の根底に位置付けている人間力の育成、それに資すると考えられる学生の主体的・自発的な地域社会への貢献に係る取り組みを支援する「人間力形成活動支援プロジェクト」や、地元経済の発展や活性化に産業界と協働で取り組む事業へ活用されています。

15. 平成 28 年度リステックス報告会　【3 月 24 日（金）：智頭町総合センター2 階中会議室】

家中茂教授を研究代表者とする研究プロジェクトが、国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）社会技術研究開発センター（RISTEX）の戦略的創造研究推進事業平成 28 年度新規プロジェクトに採択さ

れ、平成 28 年 10 月から始動しました。
　当日はプロジェクトメンバー及び連携協力者 60 人が一堂に会し、プロジェクトの進捗状況を共有しました。全体ディスカッションでは、多分野で活躍されている方々の活発な意見交換が行われ、セクターを超えた経験や技術を組み合わせた「智頭モデル」の実現が期待される充実した報告会となりました。

16. 平成 28 年度第 6 回鳥取大学産学・地域連携推進西部連絡会及び懇親会

【3 月 23 日（木）：鳥取大学医学部アレスコ棟第 1 会議室ほか】

　3 月 23 日（木）に米子地区で西部連絡会を開催しました。この会は本学の県西部地区での産官学連携を密にし、地域の産業界や自治体のニーズと大学の研究・教育資源のマッチングを増やし、産業界や自治体の活性化へのお役立ちを目指しています。
　今回は 15 名の出席で、8 機関から活動状況やイベント案内等を、本学から鳥大振興協力会西部地区会員交流会やサイエンス・アカデミー等を紹介しました。
　企業からの話題提供では、(株)中海テレビ放送様より「ケーブルテレビによる地域経済活性化の可能性」と題し、企業概要や放送・通信とエネルギー事業、さらに新サービス事業の紹介までご講演頂き活発な質疑応答が行われました。
　連絡会後の懇親会では、これまで話題提供頂いた企業の方にも参加頂き更に連携を深めて参りました。

知的財産管理・運用に関する事業報告

1. 鳥取大学特許集 2017　【3 月】

　鳥取大学特許集は、本学で出願した特許を分かりやすく紹介し、技術移転に結び付ける目的で、平成 21 年から毎年発行しています。今年で 9 号目となる本号では新規案件を 2 シーズを追加致し、また継続掲載案件について 13 件が公開され、1 件が特許登録されました。技術分野を、医療・健康、食品・バイオ、農業・畜産、機械・加工、材料・化学、情報・制御、環境・エネルギーの 7 分野に分類し、ニーズ目線でわかり易くまとめていますので、是非ご活用ください

2. 平成 28 年度中国地域産学官連携コンソーシアム外部評価委員会

【3 月 3 日(金)：岡山大学本部棟 6 階第 1 会議室】

　岡山大学において、平成 28 年度中国地域産学官連携コンソーシアム（さんさんコンソ）外部評価委員会を、外部評価委員 6 名を含む総勢 30 名で開催しました。岡山大学山本理事の開会挨拶の後、平成 28 年度の事業報告を行い、続いて経済産業省飯村室長より「産学官連携による共同研究強化のためのガイドライン」についての紹介がありました。平成 29 年度事業計画の報告後、会議出席者との意見交換が行われ、本事業の高いマッチング率については評価が高く、今後もこの活動をより一層推進して欲しいとの意見がありました。

発行日：平成 29 年 4 月 15 日＜第 48 号＞
所在地：〒680-8550 鳥取市湖山町南 4-101
TEL：0857-31-5609　Fax：0857-31-5571
連絡先：鳥取大学産学・地域連携推進機構
ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞ：http://www.cjrd.tottori-u.ac.jp/
E-mail：ken-somu@ml.adm.tottori-u.ac.jp